(一)　第905号　【昭和27年9月25日】【第三種郵便物認可】　THE MIIKE　(毎月1日、16日発行)　昭和45年12月1日(火)

炭労、期手闘争を妥結

またも低額回答9万6,000円

今度も厚かった〝壁〟

今後どうつき破るか？

炭労はかねて、一人平均十二万二千円（税込み）の期末手当を炭鉱経営者側に要求、ストライキを決意しながら秋季闘争をすすめてきた。だが今度もまた従来とまったくかわらぬ逐過をもって、ストライキもうでぬまま、去月二十八日九万六千円というきわめて低い会社回答で妥結した。現在、職場には不満が充満している。

炭労中闘の〝総括〟

目前の事態が明らかに示しているように、この秋季闘争は、打ちつづく物価上昇に強まる生活不安を反映して、要求・回答ともに二十万円～三十万円という高額支給が常識となっている。したがって炭労要求の十二万二千円自体あまりにも低過ぎるとして、炭鉱労働者の不満が集中したのだった。それなのに会社回答はその要求をさえはるかに下まわって、わずか九万六千円にとどまったのだから、職場に不満の声が渦まくのも当然なことである。

では何が、この低額回答での妥結を余儀なくしたのか。炭労がこのほど明らかにした〝総括〟は、次の諸点を指摘している。

全炭鉱の先行妥結

第一に、全炭鉱が先行妥結したこと。炭労は全炭鉱に対し条理をつくして「一般炭が中心であって業績が極度に悪化している会社に対して闘わざるを得ない全炭鉱よりも、原料炭中心の炭労を先行させてガベをやぶる方が、全炭鉱としても有利ではないか。戦術について、炭労を先行させてくれ」と提言した。

全炭鉱も「十万円以上の獲得に努力する」と約束していたのが、決定的な瞬間に資本の圧力に屈して、炭労の努力をふみにじった。これは資本の意図の枠内で闘争が終始したことを示しており、全炭鉱との共闘に寄せた中闘の認識の甘さが批判さるべきである。

今後の諸闘争で炭労の主体性をつらぬくにも、全炭鉱の先行妥結は闘いのカベを一層強大なものとした。

住友炭連が離脱へ

第二に、住友炭連と三山が戦線離脱の意思を明らかにしたこと。全炭鉱の先行妥結からすれば、住友炭連と三山の「見とおしのないストライキはできない」という主張も、根拠はあった。しかし多数意見は「その見とおしは力関係の産物である以上、条件の上づみは不可能ではない」としながらも、同炭連と三山の主張に対して「この段階で闘いを挫折させることは、今後のわれわれの運動を見とおしのないものにしてしまうおそれがある」ということになった。

力は組合員の意欲

第三に、それでも今回の最終回答をひきだした主要な力は、十一月大会に結集した各労部や組合員の強固な闘争意欲であったこと。もちろん〝中闘答申〟さえ「炭鉱労働者の労働条件の低さ」を認め、「世間なみにひきあげる必要がある」とうたっているが、その影響もなかったとはいえない。

第四に、十二時前の解決方針は正しいこと。

こんどはこの方針を実現できなかったが、この方針が名実共に実践と結合するためには、われわれの体制が全炭鉱の先行妥結などというまわりの条件に左右されない、強固な闘争主体の確立がなければならない。これが、十二時前の解決を可能にするのである。

今後の闘いの道は

第五に、以上によって炭労が図った六ケタ解決は、今次闘争で挫折し、新たな問題点を鮮明にしたこと。この克服がない限り、運動の前進はない。

きたる緊急大会（十二月十一日）で、①閉山をおそれず大幅な労働条件獲得のため闘う方針は正しいか。②産業別統一闘争は正しいか。③今後も考えられる全炭鉱の先行妥結（資本の意図）をつき破って、炭労の主体制をどうつらぬくか――の諸点につき討論し、より実践的な方針を確立する必要がある。

炭労の総括（要旨）は以上の通りで、これからの闘いは、闘いの前に常に立ちふさがる壁をつき破る力をどう結集するかにかかっており、この炭労中闘の総括を中心に職場での論議を期待しておく。

三井が許せず決意

市長候補川口さん語る

三池労組はすでに早く中央委員会の決定にもとづき、来年の大牟田市長選挙に再立候補する川口六平さん（52才、東圧労組所属、社会党員）を推せんしたが、このほど川口さんは再出場するうえでの覚悟のほどを語った。

「私が最後的に再出場の決意を固めました理由は、これ以上大牟田市政を三井の支配にまかせておくことが許せなかったからです。三池労組はすでに早く中央委員会の決定にもとづき、来年の大牟田市長選挙に再立候補する川口六平さん（52才、東圧労組所属、社会党員）を推せんしたが、このほど川口さんは再出場するうえでの覚悟のほどを語った。

「私が最後的に再出場の決意を固めました理由は、これ以上大牟田市政を三井の支配にまかせておくことが許せなかったからです。

三井のものの生存をおびやかし、働く労働者を低賃金政策で苦しめている。この大牟田を三井の支配にまかせてはおけず、大事な市政を市民の手にとりもどすために私は先頭に立って闘うつもりです」

なお川口さんの略歴は次の通り

昭和一二年三月、小倉工業卒と同時に東圧入社。

三三年四月、東圧労組委員長。

三六年一一月、日本社会党入党

三二年九月、大地評議長（以後十一期つとめる）

三四年四月、福岡県議当選。

（前期市長選立候補まで三期）

三九年一〇月、社会党福岡県本部農漁民部長。（二期）

四二年三月、社会党大牟田総支部長。

同年四月、大牟田市長選立候補（惜しくも落選）

沖縄の勝利を、次の選挙戦へ

沖縄の衆・参両院議員選挙は革新陣営の勝利に終わりましたが、勝利にみちびいたものは沖縄県民の真の平和への願いと、社会党・共産党の紐帯復帰えの闘いが一致して、勝利を勝ち取ったものである。

沖縄の勝利に学び、来年の地方選挙・参議院議員選挙を勝ち取るため、組合員・家族の一人ひとりが選挙に全力をかたむけ、反動化しつつある国の政治を、革新陣営の手にとりもどそう。

×

四山指導部二分会新聞〝職場の響〟五号（十一月号）から。

五つの対市要求

大牟田集会で確認

三井の市政支配許すな

〝公害メーデー〟と呼ばれ、全国の働く者・市民が公害撲滅をめざして決起した去月二十九日大牟田では労働者を中心に約四千名の市民が、カドミウム汚染地域の中心地――明治小学校校庭に集まり、〝公害撲滅統一行動大牟田地区集会〟を開催、改めて三井の公害責任を追及するとともに公害絶滅の闘いに立ちあがることを意志統一した。

すでに新聞やテレビなどで伝えられたように、こんどの公害絶滅を目指す全国的統一行動は、恐るべき公害の広がる実状に対する国民の怒りを反映して、東京における中央行動をはじめ、全国四十都道府県約百五十カ所での集会となってもりあがった。この克服がない限り、運動の前進はない。

きたる緊急大会（十二月十一日）で、①閉山をおそれず大幅な労働条件獲得のため闘う方針は正しいか。②産業別統一闘争は正しいか。③今後も考えられる全炭鉱の先行妥結（資本の意図）をつき破って、炭労の主体制をどうつらぬくか――の諸点につき討論し、より実践的な方針を確立する必要がある。

炭労の総括（要旨）は以上の通りで、これからの闘いは、闘いの前に常に立ちふさがる壁をつき破る力をどう結集するかにかかっており、この炭労中闘の総括を中心に職場での論議を期待しておく。

市は公害対策拡充せよ

公害生み続け80年

大牟田集会で確認　三井の市政支配許すな

〝公害メーデー〟と呼ばれ、全国の働く者・市民が公害撲滅をめざして決起した去月二十九日大牟田では労働者を中心に約四千名の市民が、カドミウム汚染地域の中心地――明治小学校校庭に集まり、〝公害撲滅統一行動大牟田地区集会〟を開催、改めて三井の公害責任を追及するとともに公害絶滅の闘いに立ちあがることを意志統一した。

こそこの三井の市政支配そのものと闘うべきだ」と決起を呼びかけたことが、人々の胸を強くうった。

大牟田集会は「市民へのアピール」と「田中大牟田市長への要求」を決定し、あとデモ行進を行なったが、対市要求は次の通りである。

一、公害実体の即時公表。市民説明会など、ガラス張りの公害行政をすすめること。

二、市民に対する健康診断を継続的に実施せよ。

三、市民の公害モニターを設置し、市民の参加する公害行政をすすめること。

四、農・漁民の要求に基いて、行政指導を拡充すること。

五、国や県の指導行政でなく、市民の参加による公害防止基準を設置し、発生企業に対する適切な措置をすること。

以上の要求は、すでに田中市長に対し提出ずみである。

市民へのアピール要旨

「とり返すことのできない命を返せ。私の青春を返せ。私につながる人間を返せ」――広島の詩人の叫びは、水俣の叫びでありすべての公害被災者の叫びである。

われわれは彼ら患者と死者のかたわらに立つとき、良心の痛みを感ぜずにはいられない。そのような人びとの闘いに対して何をしたろうか。三井独占がもたらした公害で日々その体をむしばまれながら。

いま全国で、公害撲滅の闘いの起こらんとしているときわれわれ大牟田市民こそ真っさきに立って、大牟田をその一大拠点にしなければならない。

これは七〇年代をつらぬく労働者の闘いの柱でもある。

十一月二十九日

公害絶滅統一行動
大牟田地区集会

豆ニュース

【KNA】

初の〝公害メーデー〟。全国で八十万人。空気を返せ、緑を返せ、青空を返せ、健康を返せ。

×　×

公害罪法案に財界の圧力。チッソの株主総会は「問答無用」で被害者の声を圧殺。横暴を許すな。

×　×

三島の死はコッケイであっても楯の会の行動に危険な軍国主義の土壌がある。

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼発行人 澁田紀生
年間600円　送料共

組合員・家族の皆さん締切りは21日、ふるって新年文芸をご投稿下さい。
（四面に応募要領があります）